

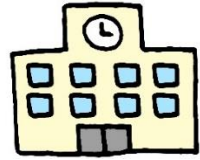
# 内浦・西浦地区にお住まいの皆様へ

## ～内浦小・西浦小・長井崎中について～

＝長井崎中学校区小中一貫校化推進委員会たより No.1＝

平成 29 年 10 月 発行  
沼津市教育委員会事務局 教育企画課  
所在地：沼津市御幸町 16-1  
電 話：055-934-4821  
F A X：055-931-8977  
E-mail：kyouiku-ki@city.numazu.lg.jp

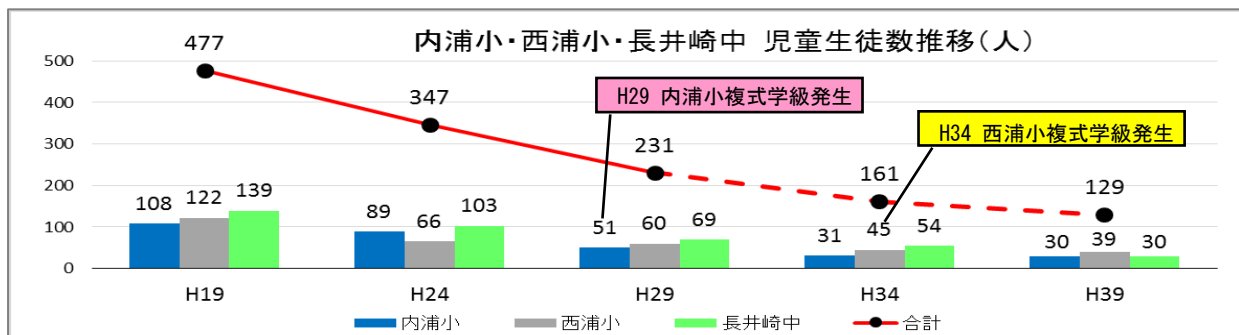
日頃より本市の教育行政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。  
沼津市教育委員会事務局では、市内の児童生徒数の推計調査を実施し、  
今後の小・中学校の在り方を考えていくこととしました。



### 内浦小・西浦小・長井崎中の状況は・・・

#### (1)児童生徒数の推移について

地域まちづくり研究所の推計によりますと、内浦・西浦地区の児童生徒数は、今後も減少傾向が続き、平成 34 年度には西浦小で複式学級<sup>※1</sup>の発生が、平成 39 年度には小中合わせても 129 人になることが見込まれています。<sup>※2</sup>



※1：2学年合わせた児童数が14人以下の場合、複式学級を編制する。(静岡県の基準)

※2：平成29年3月、地域まちづくり研究所による出生数の推移に基づく推計値。

☆ただし、平成29年8月31日現在の子ども数によれば、西浦小は平成31年度に2・3年生が複式学級になる可能性があります。

なお、複式学級においては、一般的に以下のような課題があると言われています。

- ・担任が一方の学年を指導していると、もう一方の学年に対して教師が直接指導することができなくなる。
- ・学習面における学力低下が懸念される。
- ・生活面における発達の段階に応じた指導がしにくくなる。
- ・教員に特別な指導技術が求められ、負担が大きい。

#### (2)内浦小の現状について

今年度の内浦小は、3年生が11名、4年生が3名であるため、3・4年生は1人の学級担任のもと、同じ学級で学校生活を送る複式学級を編制しています。

現在は、長井崎中教員や非常勤講師の配置により、国語・社会・算数・理科においては学年別に授業を実施しています。

なお、来年度は、現在の児童数のままでいくと、2・3年生と4・5年生で複式学級を編制することになる見込みであり、今年度と同様の対応は難しくなると考えられます。

## 内浦小・西浦小・長井崎中の今後の方向性は…

内浦・西浦地区における今後の児童生徒数の減少傾向を考えると、小学校における複式学級の解消、より良い教育環境の整備、教育の質の更なる充実等が急務です。

同様の状況は、全国的にも見られており、学校の統合や小中一貫教育（小・中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた系統的な教育を目指すもの）を導入する地域が増加しています。

小中一貫教育の成果としては、「中1ギャップ<sup>※3</sup>の緩和」「異学年の児童生徒による交流の深まり」「学校全体の人数が増えることによるスケールメリットを生かした小・中学校共通で実践する取組の増加」などが見られています。

本市においては、平成26年4月に開校した静浦小中一貫学校から上記以外にも様々な成果が報告されています。また、戸田小・中学校においては、小中一貫校化に向け具体的な検討をしているところです。



そこで、内浦小・西浦小・長井崎中の今後の方向性を考えるにあたり、内浦・西浦地区の住民、児童生徒の保護者及び学校関係者等からなる『長井崎中学校区小中一貫校化推進委員会（以下、推進委員会）』を設置し、5月と8月の会議においては、以下に示すような今後の方向性の例が挙げられ、委員の皆様による意見交換を実施しました。

※3：小学校から中学校への進学において、不登校などの生徒指導上の諸問題につながっていく事態等。

### ①長井崎中学校区で考える短期的視点からの方向性の例

- 内浦小を西浦小へ統合。状況を見つつ、その後の方向性を今後検討。
- 内浦小・西浦小・長井崎中を長井崎中にて小中一貫校化。

### ②静浦地区も含めて考える長期的視点からの方向性の例

- 内浦小を静浦小中へ統合。西浦小・長井崎中は維持。
- 内浦小・長井崎中を静浦小中と統合。西浦小を分校化。
- 内浦小・西浦小・長井崎中を静浦小中にて小中一貫校化。 等

### ↓推進委員会の様子



教育委員会では、いただいたご意見等を踏まえ、児童生徒にとってより良い教育環境を整備するために役立てていきたいと考えています。（※委員会は、年度内にもう1回開催する予定です。）

### ＜推進委員会で出された主なご意見等＞

- ・児童生徒数の減少は数字で見ると衝撃的である。
- ・内浦も西浦もそれぞれ良いものがある。それらが混じってより良くなるのが大切だろう。
- ・学校としては複式学級は非常に大変である。
- ・まずは複式学級の解消が一番大切であると思う。
- ・今後、西浦小でも複式学級が発生する見込みなので、まずは内浦小と西浦小を統合してはどうか。
- ・内浦小と西浦小を統合し、その後、児童生徒数等の状況を踏まえ、中長期的な適正化（学校統合）の方向性を検討してはどうか。
- ・地元に残ってほしいが、子どもにとって一番良い方法を考えたい。

上記以外にも様々なご意見、ご質問をいただきました。